学生年代への銭湯 PR を目的とした広報活動

団体名●石川県公衆浴場業生活衛生同業組合／代表者名●高島　悠（学生支援課）

はじめに（背景・目的・目標）

地域住民にとって身近な存在である町の銭湯。今年度も廃業や休業が相次ぎ、金沢市では2024年3月現在で15店舗という状況になった。

今年度の取り組みとしては、昨年度に引き続き銭湯を知り、利用を促す目的の広報誌となる「かなざわおふろ旅新聞 第2弾」を発刊した。部数は2,000部。

各銭湯や地域のコミュニティ施設、石川県立図書館にも蔵書された。また、新規の学生団体「Seiryo Movie Creators」の結成に伴い、組合と連携しながら銭湯×観光をタイアップさせた動画制作を行った。

活動内容

まず、第一に「かなざわおふろ旅新聞」発刊において、記事の内容としては前回同様、おふろ旅マイスターからの銭湯愛溢れるコラムを中心に、組合加盟銭湯一覧を提示した。各銭湯の特色や番頭さんの声を文字に起こし、全15銭湯の魅力を発信した。さら にコロナ禍からブームになったサウナ特集や、銭湯を支える女性経営者コラム、そして組合独自の取り組みの紹介など、普段は気づくことのない銭湯のバックヤードの部分を深く追求し、この新聞に取り上げることにした

↑新聞の閲覧は
こちらから

次に、2023年4月より結成された「Seiryo Movie Creators」についての活動内容。こちらは年度ごとに決められたテーマにそって動画制作を行う団体であり、今年度のテーマ「石川県の銭湯×観光地」となった。本団体は金沢星稜大学の地域連携プロジェクトであり、そのため組合とも連携を図ることで協力を依頼。町の古き良き銭湯の活性化のためにも、若者、観光客目線の PR 動画を制作。

動画撮影、モデル、映像編集まですべてが本学の大学生であり、四季折々を感じられる作品創りとなった。また円滑な情報共有や銭湯経営者との対談も実現することができ、経営についても若者の声を取り入れること、そして学生達にとっても今まで知らなかった世界を共に共有することができた。

銭湯経営者と学生との対談

成果、結果の考察

「かなざわおふろ旅新聞」においては、多くのメディアにも取り上げられ、県の郷土紙としても蔵書させていただくことになった。また地震等の災害により、入浴が困難な環境下においても、銭湯は「災害時生活支援拠点」としても大変重要な役割を担っている。金沢市とも協定を結んで、地域住民にとって開かれた居場所としても活用されていることを本紙からもメッセージとして届けることができた。

「県内の銭湯×観光地」動画については、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で被災された方々に向けて、入浴支援制度に関する紹介動画をこれまでに撮影した素材を活かして制作。そしてこれを県の教育委員会が主催する「いしかわ映像作品コンテスト」に出展したところ、全16作品の中から「石川県教育委員会賞（最優秀賞）」を受賞するこ

とができた。この作品は6月に行われる「全国自作視聴覚教材コンクール」への出展が決まり、県を代表して、学生にとっても充分な成果を修めることに繋がった。

石川県教育委員会賞を授賞

授賞作品はこちらから視聴できます。

今後の課題、展望

今後は金沢市内の銭湯に留まらず、石川県内の銭湯へ視野を広げ、県内全体の活性化に繋がるような媒体の制作、発信を目指して新たな取り組みを計画するつもりである。新聞の第3号発刊、石川県銭湯図鑑制作なども予定している。また映像の面については、1年かけて北陸～能登地区の復興を目指した動画創りを主とし、再び観光客が県内に足に運びたくなるような作品創りを目指す。銭湯は心安らぐ場所でもあり、震災や災害時においても生活の必需場所として今後も多くの方に利用いただきたい。